

「道の駅」の情報機能整備に関する基礎的研究* Studies on Improvement of Information Facilities in MICHINO-ETSI

折田仁典**

俵谷祐吉***

By Jinsuke ORITA and Yukichi TAWARAYA

1. はじめに

道路建議¹⁾によれば、我国の目指す方向として「ゆとり社会」の実現を挙げ、そのためには道路の機能充実を図る必要があるとしている。すなわち、従前の交通施設の容量確保に重点がおかれていたのが交通容量の確保にみられる道路本来の交通機能に加え、駐車・休息等のたまり機能、地域のコミュニティ形成機能といった空間機能等の整備に重点が置かれている。高速道路においては既にサービスエリアとしてこれらの機能は充実していたが、一般の道路に関しては民間のドライブインのみであり、公的な措置は採られていなかった。

この様な状況の中で登場したのが「道の駅」の構想である。「道の駅」はトイレ、駐車場などの休憩施設と地元自治体が整備する物産店などの各種地域振興施設等から構成される施設であり、その柱は①休憩機能②情報交流機能③地域連携機能の3機能²⁾である。

ところで、各地域の創意工夫が発揮され多数の利用者でにぎわいのある「道の駅」もある一方、当初の期待に反して諸々の問題を抱える「道の駅」も存在する。また、「道の駅」という新しい施設の考え方について、整備手法や計画課題が依然明確にされておらず、整備済みの施設についても上記①～③の機能がどの程度実現されているかも把握できていない³⁾という指摘もみられる。

本研究は上述のような問題認識を踏まえ、主に「道の駅」の利用特性および情報交流機能に着目し、

「道の駅」駅長および利用者の視点から分析・考察を加えたものである。

2. 調査の概要

調査は2種類実施した。第1の調査は「道の駅」駅長を被験者とするもので、この調査では「道の駅」運営主体からみた「情報交流機能」「地域連携機能」整備への対応および問題点の把握を目的とし、平成8年12月に調査を行った。調査項目は情報交流機能を活発化するためには「情報」「余暇」「文化」のいずれの施設充実を重視するか、さらにこれら3つの評価基準からみでの「イベントの開催」「人材育成」「特産品の開発・販売」「運営組織」「運営財源」の重要性の優劣から構成されている。第2の調査は実際の「道の駅」利用者を被験者とするもので、調査は平成9年11月「道の駅にしめ」（秋田県西目町）の利用者を対象に実施した。調査項目は「道の駅にしめ」の利用目的および施設の評価、「道の駅」で発信する各種情報の評価、そして情報種別の「必要度」「伝達方法」「情報内容の必要地域的範囲」等から成っている。両調査における調査票の配布回収結果は表-1の通りである。

表-1 調査票配布回収結果

被験者	調査年月	配布票数	回収票数	回収率
駅長	平成8年12月	44	28	63.8%
利用者	平成9年11月	600	246	41.0%

3. 「道の駅にしめ」の利用実態と施設の評価

「道の駅にしめ」は山形県境に比較的近い、日本海側を縦貫する国道7号線沿いに位置している。この「道の駅」利用者での調査の被験者の個人属性は次の通りである。①性別（男性：59.8%、女性：40.

キーワード：地域計画 道の駅 情報機能

**正員 工博 秋田工業高等専門学校 助教授

〒011-8511 秋田市飯島文京町1-1 TEL 018-845-4067
FAX 018-847-4067

*** 建設省東北地方建設局 秋田工務事務所 調査第二課課長

〒010-0925 秋田市山王1丁目10-29 TEL 018-823-4167
FAX 018-862-6627

2%) ②年齢階層 (19歳以下: 3.7%、20代: 19.5%、30代: 18.7%、40代: 14.6%、50代: 28.1%、60歳以上: 15.4%) ③利用者居住地 (秋田県中央地区: 42.3%、秋田県外: 44.2%、その他13.5%)

「道の駅にしめ」を知るきっかけとなった情報源は「案内標識」(46.7%)が最も多く、次いで「友人・知人」(15.9%)である。「道の駅にしめ」の認知度は高く(知っていた: 78.0%)、利用回数も3回以上のリピーターが利用者の62.7%を占めている。観光施設にとっては初めての訪問者も重要であるが、加えてリピーターの増加も重要である。それはリピーターは情報発信源の役割を果たしており、今後の「道の駅」展開において貴重な戦力となるからである。したがって、この観点からみても「道の駅にしめ」は成功している例である。旅行目的はドライブ(31.0%)、観光(29.0%)が大半を占めている。しかしながら、「道の駅にしめ」を目的地とする利用者も7%おり、魅力ある施設であることを示している。利用目的は当然なことながらトイレ利用(30.1%)、休息(25.1%)多く、次いで買物(13.6%)、食事(13.3%)であるが、情報案内利用(5.3%)、電話連絡(3.1%)の利用目的もあり、情報発信・提供施設としての機能も発揮している。次に、施設評価を「設置場所」「デザイン」「周囲の風景との一体感」について分析したところ、評価は極めて良く、とりわけ設置場所は「非常に良い」が21.7%と高率であった。これは、「道の駅にしめ」が国道走行中認知しやすい場所にあるとともに、付帯施設に「スーパー」「浴場施設」があり、さらに現在人気の高い「ハーブ園」が近接して存在することも原因と考えられる。前述の旅行目的に「道の駅にしめ」を目的地とする被験者が見受けられたのもこの施設利用が背景にあるものと推測される。分析結果を概観すれば、「道の駅にしめ」は本来の「休息機能」を大いに発揮しつつ、情報発信・提供機能の役目も果たしており、利用者の評価も良い。この成功要因には、利用者の多様なニーズに応える施設整備、および運営が行われてきたことが挙げられる。

4. 情報機能に関する分析

(1) 情報交流機能の活発化方策

情報交流機能活発化のためには「道の駅」におい

表-2 「情報」「余暇」「文化」施設

情報	観光情報	電話、FAX、各種情報施設
	情報端末	地域情報施設、PRセンター、案内所
余暇	交流	イベント広場、交流ホール、会議室等
	遊び	遊園・遊具、オートキャンプ場、スポーツ施設
文化	歴史・文化	郷土資料館、公民館、コミュニティセンター
	芸術	美術館、工房、ギャラリー、音楽ホール

参考資料: 建設省資料「個性豊かなにぎわいの場《道の駅》」

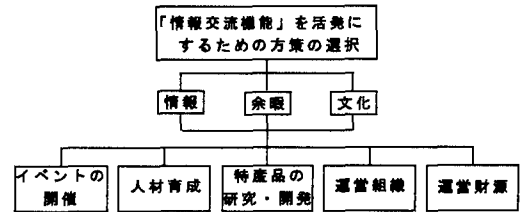


図-1 階層図

表-3 評価基準重要度

	情報	余暇	文化	幾何平均	ウエイト
情報	1.0000	1.6506	1.7618	1.4273	0.4587
余暇	0.6058	1.0000	1.3469	0.9345	0.3003
文化	0.5676	0.7425	1.0000	0.7497	0.2410
3.1115					

て①イベントの開催②人材育成③特産品の開発・販売④運営組織⑤運営財源のいずれの重要性が高いかをAHP(階層分析法)を適用し、「情報」「余暇」「文化」の3つの評価基準から評価した。なお、「情報」「余暇」「文化」とは表-2に示すような施設であり、ここでは情報交流機能活発化のためにはどの施設整備を優先すべきかを明らかにするとともに、これらの施設整備の充実の観点から見て上述の5つの課題(代替案)の重視度の把握を試みた。なお、図-1はAHP適用における階層図である。

表-3は評価基準の重要度を、また表-4は代替案の重視度の分析結果を示している。表-3によれば、評価基準の重要度は「情報」「余暇」「文化」の順となっており、情報交流機能の活発化のためには「情報施設」の充実が最優先と考えられているようである。表-4をみると代替案の重視度は「運営財源」「運営組織」「特産品の開発・販売」の順である。なお、これらは回答のあった20の道の駅全体の分析結果であるが、個々の道の駅別に分析したところそれぞれ重視する代替案は異なり、地域性あるいは道の駅自体の事情が如実に現れている。

表－４ 代替案重要度

総合評価	情報	余暇	文化	総合得点	総合重要度(%)
イベントの開催	Q0581	Q0584	Q0351	Q1496	14.9621
人材育成	Q0606	Q0519	Q0641	Q1765	17.6513
特産品の開発・販売	Q0807	Q0632	Q0387	Q1806	18.0821
運営組織	Q1145	Q0621	Q0495	Q2261	22.6118
運営財源	Q1448	Q0666	Q0557	Q2671	26.7126

表－５ 提供情報寄与度合

No.	アイテム	非常に役立った	役立った	役立ったことがない
1	道路渋滞	14	39	22
2	交通規制	18	40	16
3	道路災害	11	25	31
4	道路迂回	10	20	30
5	路面情報	16	33	20
6	気象情報	17	54	11
7	観光案内	17	56	15
8	宿泊施設	4	26	36
9	公共施設	6	25	31

総合評価

非常に役立っている	役立っている	役立ったことがない	合計
13	126	96	235

(2) 「道の駅」における提供情報に関する分析

「道の駅」では地元の観光案内、交通情報など各種の情報提供を行っているが、その利用頻度をみると「度々利用している」(6.3%)、「何回か利用したことがある」(39.2%)と「道の駅」利用者の約半数が何らかの情報入手のために利用していることが明らかとなった。

表－５は9種類の提供情報を設定し、その寄与度について集計した結果を示したものである。利用者の評価をみると「1. 道路渋滞情報」「2. 交通規制情報」「5. 路面情報」「6. 気象情報」「7. 観光案内」などの項目で「役立った」と回答した被験者が多く、一方「8. 宿泊施設案内」「9. 公共施設案内」「4. 道路迂回路情報」は「役立った」「役立ったことがない」がほぼ同率あるいは「役立ったことがない」が上回っている。役立った度合、すなわち寄与度がとりわけ高いのは「6. 気象情報」「7. 観光案内」「1. 道路渋滞情報」「2. 交通規制情報」「5. 路面情報」である。これらの結果を総合的にみると情報提供の重要性が改めて指摘されるとともに、「3. 道路災害情報」「4. 道路迂回路情報」あるいは「8. 宿泊施設案内」「9. 公共施設案内」のように「役立った」人がある反面、「役立ったことがない」と回答する被験者もあり、この原因が何処にあるのかを追究する必要がある。提供されている情報の総合評価をみると「役立った」が過半数を超えて

表－６ 数量化理論第Ⅱ類による要因分析

No.	アイテム	カテゴリー	係数	レンジ
x1	道路渋滞情報	非常に役立った	-0.13565	0.33603
		役立った	-0.33603	
		役立ったことがない	(0)	
x2	交通規制情報	非常に役立った	1.90529	1.90529
		役立った	1.82289	
		役立ったことがない	(0)	
x3	道路災害情報	非常に役立った	-0.46336	0.55258
		役立った	0.08922	
		役立ったことがない	(0)	
x4	道路迂回路	非常に役立った	-0.05058	0.07442
		役立った	-0.07442	
		役立ったことがない	(0)	
x5	路面情報	非常に役立った	1.71649	1.71649
		役立った	0.71096	
		役立ったことがない	(0)	
x6	気象情報	非常に役立った	-1.59970	1.59970
		役立った	-0.88860	
		役立ったことがない	(0)	
x7	観光案内	非常に役立った	1.22510	1.22510
		役立った	0.36406	
		役立ったことがない	(0)	
x8	宿泊施設案内	非常に役立った	-0.12689	0.29744
		役立った	0.17055	
		役立ったことがない	(0)	
x9	公共施設案内	非常に役立った	0.06596	0.38144
		役立った	0.38144	
		役立ったことがない	(0)	
		相 関 比		0.57119
		判別の中率	比	判別の中率
		1群:非常に役立って	6/8	0.750
		2群:役立っている	18/36	0.500
		3群:役立っていない	8/8	1.000
		全 体	32/52	0.615

おり、道の駅の提供情報は評価されている。なお、性別、年齢階層別に総合評価を検討したところ、性別でみると「役立った」が女性の51.6%に対し、男性は64.1%と高く、男性の評価の方が高率である。また、年齢階層でみると、50代、60歳以上で「役立った」の比率が高く、高齢になるほど寄与度が高い。将来的にみて高齢ドライバーの増加が予想されるため、この結果をみると高齢者の視点に立った提供方法を模索することが必要になってくる。

設定した9種類の情報(アイテム)のいずれが総合評価(外的基準)に影響を及ぼしているかを把握するため数量化理論第Ⅱ類を適用した。各アイテムのレンジをみると「2:交通規制情報(1.9052)」であり、次いで「5:路面情報(1.7165)」「6:気象情報(1.5997)」の順となっている。したがって、これらが情報の寄与度の総合評価に影響を及ぼしていることになる。今後、いずれの情

表－７ 情報種類別必要度、伝達手段、情報範囲

No.	情報種類	必要度			伝達手段	情報範囲
		非常に必要	必要	計(%)		
1	交通規制	53.3	42.9	96.2	電光掲示板	秋田県内・東北全域
2	経路案内	46.2	40.0	86.2	電光掲示板	東北全域
3	渋滞情報	48.5	47.1	95.6	電光掲示板	秋田県内
4	路面状況	49.5	43.8	93.4	電光掲示板	秋田県内
5	天気予報	56.8	35.8	92.7	電光掲示板	東北全域
6	ひまわり画像	8.6	36.0	44.6	電光掲示板	東北全域
7	レーダ雨量	13.9	44.3	58.2	電光掲示板	東北全域
8	災害情報	41.2	48.2	89.4	電光掲示板	東北全域
9	道の駅紹介	22.3	62.1	84.4	パンフレット	東北全域
10	イベント情報	17.9	60.0	77.9	パンフレット	秋田県内
11	観光案内	24.1	65.0	89.1	パンフレット	東北全域
12	宿泊施設案内	19.1	55.3	74.4	パンフレット	東北全域
13	公共施設案内	14.7	62.8	77.5	パンフレット	秋田県内・東北全域
14	医療施設案内	22.1	54.9	77.0	パンフレット	秋田県内
15	広報	9.0	49.7	58.7	パンフレット	秋田県内

(注) 伝達手段、情報範囲は回答の最も多かった項目を挙げた

報に関しても、その内容および提供方法等について詳細な検討を要するが、この時上述の情報（アイテム）が提供される情報の総合評価に影響を及ぼしていることを考えておくことが肝要である。

「道の駅」で提供されている各種情報の寄与度が明らかとなったので、続いて情報の必要度、伝達手段、情報内容の地域的範囲について考察を行った。分析対象とした情報の種類は表－６に示す通りである。また、「必要度」は「非常に必要」「必要」「不要」の３段階評価、「情報範囲」は「秋田県内」「東北地方全域」など９種類を設定した。

表－７はこれらの分析結果を整理したものである。表によれば、必要度の高い情報としては「交通規制」「渋滞情報」などトリップ到達時間（所要時間）に関係する情報、「経路選択」など地理的情報に関する情報、「路面状況」「災害情報」などの運転安全性に関する情報などが挙げられる。また、休息・レジャーに関係する「道の駅紹介」「観光案内」などのニーズも高い。情報の伝達手段としては、「電光掲示板」が最も多いが、「道の駅紹介」では道の駅新聞、「イベント情報」「医療施設案内」ではポスター、掲示板、さらに「経路案内」「災害情報」では掲示板といったニーズもあり、この背景には「地理的位置のより明確な情報」の入手があるものと推測される。情報内容の地域的範囲では「東北全体」「秋田県内」

の両者の要望が高かったが、これらに次いで「山形県と秋田県」も高く、情報種類別にみると「交通規制」「渋滞情報」など概してトリップ所要時間に影響する情報の比率が高くなっている。これは調査場所とした「道の駅にしめ」が山形県からのアクセスも良いことが原因として考えられ、県境近くに位置する「道の駅」での情報提供では「道の駅」所在地県と隣県の情報を合わせて行う必要があることを示唆している。

５. まとめ

本研究では主に「道の駅」の利用実態、「道の駅」での情報提供に着目して分析を加えたものである。分析から得られた主な結果を要約すれば次のようである。

- 1) 「道の駅」駅長の視点によれば、「道の駅」における情報交流機能活発化のためには「観光情報」「情報端末」などの情報機能施設の整備優先度が高いと認識されている。また、「情報」「余暇」「文化」の情報機能整備の観点から各種情報交流活発化方策の代替案を検討したところ、「運営財源」「運営組織」「特産品の開発・販売」の順で重要度が高いことが明らかとなった。
- 2) 「道の駅にしめ」の利用者の旅行目的はドライブ、観光が圧倒的に多いが、「道の駅にしめ」を目的地とするトリップもある。また、利用目的は「トイレ利用」「休息」が過半数を占めるが、一方では「情報案内利用」「電話連絡」等の利用形態もあり、「道の駅」が情報発信・提供施設として機能するとともに地域の観光資源としての役割を果たすなど多くの効果を発揮している。
- 3) 「道の駅」の提供情報では「交通規制」「渋滞情報」などのトリップ所要時間に関する情報、「経路選択」などの地理的情報、「路面状況」「災害情報」など運転安全性に関する情報等のニーズが高い。

【参考文献】

- 1) 道路審議会建議要約、1996
- 2) 建設省道路局：道の駅の本、PP. 10～12、1993
- 3) 増田聡：地域開発戦略における施設整備と道路ネットワーク、地方部における道路のあり方（東北地方道路研究会編）、PP. 233～253、1995